

河北潟地方の神社と祭神の分析 I

宮本 眞晴

河北潟湖沼研究所歴史委員会

〒920-02 石川県河北郡内灘町字大清台 302

要約： 神社に祀られる神々は時代によって変化し、その時代の考え方の影響を受けている。現存する神社の系譜をたどることによりその土地の埋もれた歴史について知ることができる。筆者は河北潟地方の神社 113 社に対して文献及び現地調査を行った。今回は河北潟地方の神社と祭神の一覧を作成し、それぞれに祀られている神々の出自を明らかにした。

キーワード： 河北潟地方，神社，祭神，系統，出自

序論

古来日本の神々には姿形（すがたかたち）が無く、いたる所に存在した。魚を捕りに沖へ出て右手前の大木と遠くの山頂を結び左手前の岩と遠くの谷を結ぶ線の交わる所が好漁場だとすれば大木，山，岩等に神を見た。他の宗教と違い神は人間の姿をしていなくても神だった。狩猟の時代から農業になり土地に定着した人々は山の谷に残った雪溪の形で農作業の時期を判断した。白馬，ウサギ，腰の曲がったジイサン等の名がついた山々がそれである。その山々は稲作に必要な水をも恵んでくれる。そこに人々は神を見る。神社には鏡や剣，石等を「御神体」として祀っている。それらは神の象徴ではなく神が降臨しそこに宿る神の魂の一部である。それを御霊代（みたましろ）ともいう。ヤシロは屋代であり御神体を納めた屋である。

その後記紀（古事記，日本書紀）に記載

された八百萬の人物神になり、信長，秀吉，家康，利家等々の近世の武将まで神として祭られた。

近代では明治天皇を祀った明治神宮や幕末の志士吉田松陰の松陰神社，日露戦争の將軍東郷平八郎の東郷神社，乃木希典の乃木神社，幕末から太平洋戦争まで国に殉じた人々を神と祀った靖国神社等々。変わった例では安政四年（1857 年）徳川幕府が医学教授として初めて正式に長崎に招いたポンペ（彼以前に日本人に西洋医学を教えたシーボルトはオランダ軍軍医で正式には日本人に教えられない身分だった）から間接的に医学を学んだ周防（今の山口県）三田尻の町医者の息子は，彼を非常に尊敬し神とあがめ，自分に屋敷内にポンペ神社を建立。西欧人で神社に神として祀られている唯一と言っていい例である。

このように神社に祀られる神々は時代によって変化し，その時代の考え方の影響を受けている。現存する神社の系譜をたどる

ことによりその土地の埋もれた歴史について知ることができるだろう。筆者は河北潟地方の神社 113 社に対して文献及び現地調査を行った。今回はそれぞれに祀られている神々の出自について述べる。次回は調査結果に基づいて河北潟地方の神社の特徴について分析する。

神社と祭神の分析の方法

河北潟地方の神社の系統や祭神の変遷を調べる上で、時代によるいくつかの大きな動きに注目しておく必要がある。

最初の大きな動きは現在内灘町大根布にある小浜神社の神主斉藤氏によるものである。斉藤氏は織田信長の武将柴田勝家、佐久間盛政が一向一揆の拠点木越の光徳寺を攻めたとき、一揆側に対した功によりその後、前田利家から河北潟沿岸の大半の神社を支配を許された。

次の動きは明治初期で、それまで各地の集落には古くからその土地を司っていた名もない神や社がいくつもあったし、寺院と共存しているものもあった。しかし明治政府になり、それまでの神仏習合から一転して、廃仏毀釈（はいぶつきしゃく）へと変わった。鎮守の森、鎮守の社を統廃合し、祭神を記紀に合わせるように政府は圧力を加えた。この改悪で各地の神社はほぼ天皇家の祖神アマテラスを祀る伊勢神宮を中心に統一、管理されるようになった。

石川県でそれを行ったのは森田平次（柿園）だが、彼の行った白山本宮に対する廃仏毀釈はヒステリックなすさまじさで、白山では全国から白山に奉納された石仏は破壊され仏教系の建物は売却、移築、破壊され、仏画、仏具は破却された（「石川県の歴史」より）。

こうした経緯を経て明治期、集落に一神社に統一されたため、現在多くの神社で異なる性格の神々が一緒に祀られている。そのために神社の系統の分析が困難になっている（註1）。今回の調査では、1）石川県神社庁発行「石川県神社誌」をもとに「加賀志徴」、「河北郡誌」、「内灘町史」、「津幡町史」、「宇野気町史」にある祭神の記録をすべてを調べた上で、2）すべての神社の現地調査を行った。現地調査では、鳥居と社殿の形式、神社に残されている記録、神主からの聞き取り調査を行い、それぞれの神社に祀られているすべての祭神と神社の沿革をできるだけ性格に把握するようにつとめた。

今回の調査は河北潟に接している地域を対象にしたが、かつては宇ノ気川によって河北潟とつながっていたフゴ（不湖・河北潟が土砂の堆積等による後退過程に残された小潟湖のこと）があったため、河北郡北部の高松町の神社も含めた。

河北潟周辺の神社と祭神の一覧

1）加賀郡の式内社（「式内社の研究第8巻北陸道」より）

延喜格式（えんぎきやくしき、延喜式、格式ともいう：延喜五年（905年）醍醐（だいが）天皇の命で制定され、延長五年（927年）に完成したもので、全50巻よりなり、宮中の儀式、各省の事務制度、行政儀式、神社の格式等を定めたもの）に記されている神社は式内社といわれ格式が高いとされているが、加賀郡からは以下の十三座が記されている。この十三座を現在のどこの神社にあてるか諸説あり確証のない神社もある。

- (1) 小浜神社 (内灘町大根布)
 往古加賀郡小浜郷宮坂村黒津船森に鎮座, 黒津船明神と称す.
 寛政十一年 (1799) 五月二十六日大地震, 社地の砂山崩れ社殿破壊し失火. 天保三年 (1832) 石川郡五郎島村地内へ転地, 明治二十二年 (1889) 現在地へ
- (2) 野間神社 (不明)
 石川郡玉鉾村 (米丸村大字玉鉾) 玉鉾宮 (玉戎郷野間神社), あるいは河北郡小坂村野間神社の説あり
- (3) 三輪神社 (不明)
 現金沢市石浦神社 (三輪社), または河北郡中条村三輪神社, あるいは河北郡東英田村加茂神社
- (4) 賀茂神社 (宇ノ気町横山)
 河北郡横山村賀茂神社
 平安初期京都の下賀茂神社の社領であった.
- (5) 神田神社 (不明)
 加賀郡上田上村少彦社, または加賀郡田上郷神田神社, あるいは小坂庄春日社 (神田神社)
- (6) 下野間神社 (不明)
 河北郡乙丸村春日社か, 他説無し
- (7) 郡家神社 (不明)
 河北郡吉原村山王社 (現金沢市吉原町郡家神社), あるいは河北郡三池村山王社 (現金沢市三池町日吉神社)
- (8) 須岐神社 (金沢市東蚊爪町須岐神社)
 東蚊爪村領赤浜赤浜八幡 (赤馬場須岐神社)
- (9) 野蛟神社 (金沢市神谷内町野蛟神社)
 河北郡神谷内村毘沙門社

- (10) 波自加弥神社 (金沢市花園八幡町)
 田近庄四坊高坂山に鎮座のところ寿永二年 (1183) 倶利伽羅合戦の時兵火により消失, 現在地へと移る.
- (11) 大野湊神社 (金沢市寺中町)
 往古佐良岳の麓大野郷宮腰村竿林に鎮座. 金石港は大野湊と呼ばれていたので大野湊神社と称し, 湊の守護神として仰がれた. 津波のため佐良岳崩れて海中に没倒, 後再建. 後深草天皇建長四年 (1254) 現在地へ. 佐良岳明神が佐那武明神から現名称.
- (12) 野蚊神社 (不明)
 有力な説として河北郡刈安村笠野神社 (野々宮), 他に河北郡琴琴野蚊神社の説あり
- (13) 笠野神社 (津幡町笠池ヶ原)
 河北郡笠谷村 (現津幡町) 笠池ヶ原笠野神社, または, 河北郡津幡村清水八幡宮の説あり (現在地は笠野郷ではないが往古笠野郷に鎮座). 他に河北郡刈安村 (現津幡町) 笠野神社 (笠野郷ではないむしろ野蚊神社か)

2) 河北潟地方 113 社の祭神と沿革

以下に河北潟地方の 113 社の文献と現地調査より明らかとなった祭神と沿革, 伝承等を示しながら, 河北潟地域の神社の特徴について若干触れることにする.

- (1) 賀茂神社 (宇ノ気町横山)
 祭神: 賀茂別雷神 貴布称神, 天照大神
 沿革: 金津郷の総社, 式内社, 往古賀茂神社の荘園, 敏達天皇二年 (573) の文書に登場. 天平勝宝五年 (753) 英田郷賀茂邑 (津幡

町加茂)に影向垂跡し給う。これを加茂の本宮という。大同元年(806)金津郷鉢伏邑(宇ノ気町鉢伏)へ遷座,これを閑地の宮という。大同二年(807)現在地に遷座。天正十二年(1584)末森の合戦の折,兵火にて焼失万治元年(1658)再建。

伝説:境内は広く近くに横山フゴの跡,御手洗池があり片目魚の伝説(註2)がある。

- (2) 盛土(もりど)神社(高松町長柄町)
祭神:賀茂別雷神,貴布祢神,市杵嶋媛命,軻遇突智命,菊理媛神
沿革:元文五年(1740)創祀,高松フゴ沿岸

- (3) 八幡(はちまん)神社(高松町内高松)
祭神:応神天皇
沿革:創祀不明。横山賀茂神社末社。高松城の守護神 高松フゴ沿岸

- (4) 亀田(かめだ)神社(宇ノ気町谷)
祭神:天照大神・御年神,市杵嶋姫命
沿革:創祀不明。横山賀茂神社末社。明治初年同地通称船山弁天宮の市杵嶋姫命を合祀。

- (5) 上堂(うえどう)社(宇ノ気町笠島)
祭神:大市比売神,伊弉冉神
沿革:創祀不明。横山賀茂神社末社。元当部落に市姫宮(立石之神)が道路より低い位置にあり,高地に移す際,上堂社と称した。その際,伊弉冉神も合祀。

- (6) 藤森(ふじもり)神社(宇ノ気町上田名)
祭神:伊弉諾尊,火雷神
沿革:創祀不明横山賀茂神社末社。

大同二年(807)八月賀茂神社より勧請,宝之宮に火雷神あるを合祀。

- (7) 八幡(はちまん)神社(宇ノ気町余地)

祭神:応神天皇

沿革:貞観三年(861)勧請横山賀茂神社の末社。昭和二十一年(1946)八幡社を八幡神社に。

- (8) 糺之(ただすの)神社(宇ノ気町余地)

祭神:糺玉依姫命

沿革:大同四年(809)八月,横山賀茂神社東殿として勧請した摂社。糺,坪野,地藏,余地の総社。京都下鴨神社の所在地名糺の森からの地名か。

- (9) 白山(しらやま)社(宇ノ気町宇気)
祭神:保食神,菊理媛神

沿革:横山賀茂神社の末社。大同年間賀茂神社の御饌田(神に供える米を作る田)の地として保食神(うけもちのかみ)を鎮斎し賀茂宇気の社(けつね田)と奉称。これが村名となる。別に観音堂社と称し菊理媛神を奉斎。大正初期合祀。

- (10) 七窪(ななくぼ)神社(宇ノ気町七窪)

祭神:天星神(あまつほしのかみ)(註3),菊理媛神(くくりひめのかみ)

沿革:貞享年間(1680年代)奉斎,横山賀茂神社末社,元当集落は鉢伏新(菅原社)笠島新(白山社)の二集落。二社を菅原社の位置に明治二十九年(1896)併せ同一境内二社昭和二十年(1945)現社名

- に。
- (11) 白山（しらやま）社（宇ノ気町鉢伏）
祭神：菊理媛神
沿革：創祀不明。横山賀茂神社末社。
大正五年（1926）現在地に。
- (12) 闇地（かくち）神社（宇ノ気町鉢伏）
祭神：賀茂建角身命，天照大神
沿革：大同四（809）年創祀。横山賀茂神社遷座の折りの旧蹟地で大同闇地という。横山賀茂神社の摂社（せっしゃ）。
- (13) 白山（しらやま）神社（宇ノ気町気屋）
祭神：伊弉諾尊，伊弉冉尊，菊理媛神
沿革：創祀不詳。明治四十年（1907）同集落の白山社を合祀。気屋姫神社と呼ばれた古社。白山の御子神と伝えられる。
- (14) 宇野気（うのけ）神社（宇ノ気町宇野気）
祭神：応神天皇・菊理媛神
沿革：光仁十三年（822）創祀。観音堂八幡と称す。明治維新以来白山社と称すが昭和二十年（1945）宇野気神社に。横山賀茂神社の末社。
- (15) 八幡（はちまん）神社（宇ノ気町森）
祭神：応神天皇
沿革：承和八年（841）創祀横山賀茂神社の末社。境内に稲穂神社（豊受大神）がある。森と向野の産土神。
- (16) 日吉（ひよし）神社（宇ノ気上山田）
祭神：大山咋神
沿革：創祀不明。明治四十三年（1910）下山田の八幡神社を名目上合祀。昭和二十二年（1947）分離。堂ヶ谷内に黒津船権現を祀り，出村の和田にも日吉神社（非宗教法人）あり。
- (17) 山田八幡（やまだはちまん）社（宇ノ気町下山田）
祭神：応神天皇
沿革：明治維新以前より鎮座。明治四十三年（1910）下山田の日吉神社に名目上合祀，昭和二十二年（1947）分離創立。
- (18) 八幡（はちまん）社（宇ノ気町内日角）
祭神：応神天皇，賀茂別雷神
沿革：弘仁十三年（822）創祀。嘉祥二年（849）現在地に。横山賀茂神社の末社。境内に若宮社（若宮神）あり。
- (19) 榊原（さかきばら）神社（宇ノ気町大崎）
祭神：天照大御神，蛭児神
沿革：創祀不明養老二年（718）天照大御神を奉祀して創立ともいう。大正二年（1913）同集落の蛭児神社を合併。大根布小浜神社の付属社。なお集落南端に小社があるが社名不詳。祭神は屋船久々能智神（やふねくくぬちのかみ），手置帆負神（たおきほおいのかみ），尾船豊受姫神（おふねとようけひめのかみ），彦狭知神（ひこさしりのかみ）の四神（非宗教法人）（註4）。
- (20) 倉稲魂（くらいなたま）神社（宇ノ気町狩鹿野）
祭神：倉稲魂神
沿革：文久三年（1863）同集落大物主神社相殿の神を分祀し創立，小浜神社の末社。通称八幡さん。うかのみたまじんじやとも読む。

(21) 大物主（おおものぬし）神社（宇ノ気町狩鹿野）

祭神：大物主神

沿革：小浜神社末社。天正十五年（1587）小浜神社境内より移転造営。イリコの宮と呼ぶ。三輪大明神と呼ばれたこともあり。

(22) 八幡（はちまん）神社（宇ノ気町指江）

祭神：菅田別尊，氣長足姫尊，比咩大神

沿革：天正十五年（1587）小浜神社境内より移転造営。指江には本社の他に春日神社，大將軍社（だいじんぐ）（註5），赤城社（あかげ）の三社がある（非宗教法人）。氏神様は「オンミヤサマ」と呼ばれる。集落東南方に春日神社（通称観音様）があり集落の神として崇敬を受けている。東北方ウワノ台地上に大將軍（ダイジング）東方400mの山上に赤城（アカゲ）社があり，山の上にあるところから「ウエの神様」と呼ばれている。この赤城社はイチ姫（女神）と薬師（男神）の二社を合祀する。

(23) 八幡（はちまん）神社（宇ノ気町多田）

祭神：応神天皇，神功皇后，建御方命，天照大神，葦津姫命

沿革：創祀不明。元は当地諏訪山に諏訪大神を祀り諏訪八幡神社と称す。明治初年八幡社を合併一社となす。このとき既に創立八百年と伝えられた。市姫社と神明社を合祀。

日本海岸，七塚町の七つの神社を北から記すが沿岸漁業の守護神が見られる。

(24) 神明（しんめい）神社（七塚町木津）

祭神：天照大神

沿革：横山賀茂神社の末社。創祀不明。往古大日堂と呼ばれていたが明治初年より神明社と称し，昭和二十一年（1946）現社名に。なお，木津地内には海岸砂丘上に蛭子社（非宗教法人）がある。

(25) 住吉（すみよし）社（七塚町松浜）

祭神：底津綿津見神

沿革：創祀不明。横山賀茂神社末社。

(26) 住吉神社（七塚町遠塚）

祭神：中津綿津見神

沿革：創祀不明。横山賀茂神社末社。当集落が太郎兵衛塚村（元禄十三年（1700）遠塚村と改む）と称せし頃の勧請。当集落地内に当社の旧跡地があり古宮社として尊崇される。

(27) 稻荷（いなり）神社（七塚町浜北）

祭神：豊宇氣毘売神

沿革：創祀不明。大同年間（806—809）横山賀茂神社の隆盛地社人が神饌用の漁労をなし，此の付近を秋浜と称し豊漁加護を願うため豊宇氣毘売神を祀った。横山賀茂神社の末社，境内に蛭子社あり。

(28) 八幡神社（七塚町秋浜）

祭神：応神天皇

沿革：横山賀茂神社の末社。永万六年勧請説又，天正十六年（1588）勧請説あり。天正十二年（1584），末森の合戦に敗れた佐々内蔵助成政が逃走の際兜の前立に守護として戴いていた神像を落とし

以上は高松・宇ノ気町の神社である。次に

ていったものを御神体として奉斎したとの伝承あり。境内に蛭子社あり（なお永万は 1165 年 1 年間しかなく永万六年は存在しない）。

(29) 住吉神社（七塚町外日角）

祭神：上津綿津見神

沿革：横山賀茂神社の末社，日角（現内日角）の里に一年疫病流行移住に堪えず浜辺に十八戸移住し，外日角と称し，漁業を以て生計するに依り住吉大明神を崇め奉る。境内に蛭子社あり。河北潟は別名内潟といい外日角には内潟の姓が多い。

(30) 住吉神社（七塚町白尾）

祭神：底筒之男神，中筒之男神，表筒之男神

沿革：養老二年（718）大根布小浜神社より分祀，海岸守護神として住吉三社を祀す。近郷の総社，小浜神社付属社，元亀二年（1571）当地海岸に光る大石現れ，魚族慕い寄り，漁民等大漁し巨利を得たり。村人等神官と相謀り引き揚げ，神石として本殿後方に神隠す。これが特殊神事海神祭の起源なり。なお海岸白尾灯台の横に恵比寿大明神（非宗教法人）があり。

以上が七塚町七社であるが湖の漁業神ではないが海の漁業神の典型が見られる。

(31) 富士神社（津幡町領家）

祭神：天津彦瓊々杵尊，木花開耶姫命，少彦名命

沿革：小浜神社の摂末社を天正十五年（1587）移転造営，大正五年

（1916）同集落少彦名神社を合併三社となる境内に五輪塔の断片がある。

(32) 白山神社（津幡町御門）

祭神：菊理媛神

沿革：創祀不明。元白山社と称したが明治三十年（1897）現社名に。御門及び御門出村の産土神。

(33) 八幡神社（津幡町谷内）

祭神：八幡神（応神天皇）

沿革：創祀不明。古来谷内地区の産土神として崇敬される。境内に五輪塔二基あり。

(34) 比咩神社（津幡町能瀬）

祭神：比咩大神

沿革：小浜神社摂末社を永享二年（1430）移転造営。表能瀬の産土神。祭神は市杵島姫命とも，大宮比売命とする文書もある。なお，表能瀬には非宗教法人の金比羅大神宮がある。

(35) 日吉（ひよし）神社（津幡町能瀬）

祭神：大己貴命

沿革：小浜神社摂末社を天正十五年（1587）移転造営。裏能瀬の産土神。能瀬川の改修で現在地に移転。境内に「三猿」を祀る小祠がある。山王さんと呼ばれている。

(36) 加茂（かも）神社（津幡町加茂）

祭神：加茂神，大山咋神，伊弉冊神，建御名方神，応神天皇，天照大神

沿革：創祀不明。古来加茂の産土神として崇敬せらる。明治初期地区内五カ所に在った小祠を合併。かつて京都賀茂神社の御厨（みくりや）であったゆかりの神社とか。式内三輪神社説もあるが確証無し。横山賀茂神社の古蹟説あり。

英太賀茂神社と称した。

(37) 八幡神社（津幡町舟橋）

祭神：誉田別尊，気長足姫尊，比咩大神，天児屋根尊

沿革：小浜神社摂末社を永享二年（1430）移転造営。大正五年（1916）表舟橋藤原神社と合併。

社殿新築四柱の神を祀る。裏舟橋の産土神もと宇佐社と称した。なお藤原神社は表舟橋に旧のまま祀られている。

以上，31-37 の神社は明治期の東英（ひがしあがた）村の湖岸の神社である。西英村は指江を中心とする現在の宇ノ気町の東側。英太，英田（あなたとも言う）は古代の英太莊（あがたのしょう）の意。金沢市の英町（はなぶさちょう）は東英村にあった広済寺（こうさいじ）が江戸期一時移転していたためついた町名。現在広済寺は津幡町の領家にある。

(38) 住吉神社（津幡町川尻）

祭神：底筒之男命，中筒之男命，表筒之男命

沿革：小浜神社摂末社を永享二年（1430）移転造営。津幡川沿いにあり上流の津幡町庄の住吉神社が蕪の葉に乗って来着したとの伝説あり。川尻用水の守護神。

(39) 醫師（くすし）神社（津幡町川尻）

祭神：大己貴命，少彦名命

沿革：小浜神社摂末社で天正十六年（1588）移転造営。もと医師社と称した。往古田圃で住民が薬師を発見祀ったもの。昭和後期までカヤ葺の見事な社殿であったが近年改装。

(40) 八幡神社（津幡町中橋）

祭神：気長足姫尊，誉田別尊，大鷦鷯尊，武内宿称尊

沿革：小浜神社摂末社で天正十六年（1588）移転造営。もと正八幡宮と称す。

(41) 八幡神社（津幡町五反田）

祭神：誉田別尊，気長足姫尊，比咩大神

沿革：小浜神社摂末社で天正十五年（1587）移転造営。もと八幡宮と称す。

(42) 八幡神社（津幡町中須加）

祭神：誉田別尊，気長足姫尊，比咩大神

沿革：小浜神社摂末社で天正十五年（1587）移転造営。もと八幡宮と称す。

(43) 野田八幡（のだはちまん）神社（津幡町横浜）

祭神：気長足姫尊，誉田別尊，大鷦鷯尊，武内宿称命

沿革：小浜神社摂末社で天正十五年（1587）移転造営。

以上 37-42 が旧井上村で地名を見ると潟岸の地形が思われる。須加（すか）は洲や砂丘の意味。

(44) 太白山（おおしろやま）神社（津幡町津幡）

祭神：大禍津日神

沿革：もと大白山社と称し，清水八幡神社の末社。もと津幡の大白山（しろのやまとも言う）に鎮座。

明治二年（1869）風害のため倒壊。清水八幡に遷座していたが明治二十年（1887）現在地に移転造営。

社殿も大きく彫刻も見事。本殿背後の小高い場所に神様石（高さ85cm）がある。御堂を建ててもいつの間にか外部へ出られるとの伝説があり現在も雨ざらしになっている。地区内には石を産するところがない。古い石神信仰。太白山信仰との関係は？（註6）

(45) 八幡神社（津幡町津幡）

祭神：応神天皇

沿革：創祀不詳。森林公園入り口にある平家落人伝説地の平谷（へいだん）の山地に鎮座。清水八幡宮の末社。

(46) 白鳥（しらとり）神社（津幡町加賀爪）

祭神：日本武尊（註7）

沿革：古く白鳥明神と称し、清和天皇貞観十八年（873）従五以下の神位に叙せられた国史見在社にあてられる名社。井上荘の総社。後に加賀爪社と称したが、明治十五年（1882）現社名に。白鳥神社は全国に100以上ある。

(47) 清水八幡（しみずはちまん）神社（津幡町清水）

祭神：大己貴命、応神天皇、建御名方神、吾田鹿葦津姫命

沿革：伝承では神亀元年（724）創立。延喜式内笠野神社とも伝えられる。往古は笠野郷七黒村字吉倉（現津幡町吉倉）に鎮座。奉永二年（1183）太白山（津幡町津幡）に移転。慶長年間（1596-1614）現社地に移転。明治四十一年（1908）諏訪社、市姫社を合併。

(48) 住吉（住吉）神社（津幡町庄）

祭神：綿津見神

沿革：創祀不明。庄の産土神。

(44) - (48) は旧津幡町四町の神社。

(49) 三輪（みわ）神社（津幡町北中条）
（註8）

祭神：大物主神，菊理媛神，経津主命，武甕槌神，天児屋根命，比売神，稻倉魂命

沿革：仁明天皇承和三年（836）創立の延喜式内の三輪神社と伝えられる。古来井上郷十七村の総社。山王社，日吉社とも称された。明治四十年（1907）同地区の野間神社，春日神社，今倉社を合併。一の鳥居は木製の両部鳥居であったが交通事故で破壊され現在は木製稻荷鳥居，境内には五輪塔がある。

(50) 井上三輪神社（津幡町浅田）

祭神：大物主命

沿革：創祀不明。もと井上神社と称した。境内に五輪塔数基あり。

(51) 八幡神社（津幡町南中条）

祭神：誉田別尊，気長足姫尊（神功皇后，比咩大神）

沿革：小浜神社摂末社を天正十五年（1587）移転造立。

(52) 住吉神社（津幡町太田）

祭神：底筒之男神，中筒之男神，表筒之男神

沿革：往古より同地区八幡神社に祀った神を慶長三年（1598）別に社殿を建築分祀して住吉神社と称す。太田北出（きたで）の産土神。

(53) 八幡神社（津幡町太田）

祭神：誉田別尊，気長足姫尊，比咩大神

沿革：小浜神社摂末社を天正十四年（1586）移転造立。太田南出（いなんで）の産土神，境内に盤持石（ばんもちいし，力比べをした石）二個あり。

(54) 加賀（かが）神社（津幡町潟端）

祭神：建御名方神，八坂刀売命，誉田別命，前田綱紀

沿革：加賀藩五代藩主前田綱紀（松雲公）の時代，延宝元年（1673）より河北潟縁の開拓が始められ潟端新村が成立した時，守護神として諏訪社を創立したのに始まり綱紀を在世中享保九年（1724）に奉祀したとも言う。同時に誉田別命をも勧請。八幡神社と称す。明治四十一年（1908）両社合併。松雲神社と改称。明治四十二年（1909）加賀神社と改称。境内に稲荷神社あり。

以上（49）－（54）が旧中条村の神社で潟沿岸のものであるが非宗教法人の神社がもう一つある。潟端村の出村で現在の金沢市利屋町七ツ屋にある八幡神社（別名加賀神社）である。

(54) － 2 八幡神社（金沢市利屋町）

祭神：誉田別尊，綱紀霊

沿革：享保十年（1723）創祀。潟端村より七世帯の出村が利屋町村地内にできその人々が八幡神社を祀った。七ツ屋では利屋町の日吉神社の祭日に祭典をあげている。松雲様と呼ばれている。神社庁管理外の非宗教法人。

(55) 日吉（ひよし）神社（金沢市利屋町）

祭神：大山咋尊，大巳貴尊

沿革：小浜神社説末社を天正十五年（1587）移転造営。別名半輔日吉神社。

(56) 八幡（はちまん）社（金沢市岸川町）

祭神：応神天皇，比咩大神，伊弉諾尊，伊弉冊尊，神功皇后，菊理媛命

沿革：天正五年（1577）宇佐神宮より勧請し，八幡神社と号す。往古極楽寺仁王堂白山祭神白山権現勧請不祥。明治六年（1873）白山神を併せ祀る。

(57) 波自加弥（はじかみ）神社（金沢市花園八幡町護国山）

祭神：波自加弥神（註9），正八幡神（応神天皇，神功皇后，比咩大神），天照皇大神，少彦名神，仲哀天皇，武甕槌神，天児屋根神，経津主神，建御名方神，八坂刀売神，武内宿称

沿革：延喜式内社。田近郷（森本周辺一帯）の総社。往古現在地の東，四坊高坂にあったが俱利伽羅合戦のおり，木曾義仲軍が焼き払う。のち現在地に移る。往古夏期雨が降らず作物，人畜に多大な被害が出た。その時ある人が高坂山で断食潔斎三七日（21日）に及び満願の日，谷より金色の光がさし，霊水が沸き出した。神に供物をするのが何もなくショーガー箱を供物とした。日本でも珍しい調味料を祭神とする神社で調理人の人々の崇敬が篤い。生姜祭。境内に誼屏社（じんべいしゃ）があり，ハジカミを日本へ伝えに武内宿称を祀る。稲荷鳥居が三の鳥居まである。

- (58) 花園（はなぞの）神社（金沢市月影町）
祭神：伊弉諾尊，伊弉冊尊，菊理姫尊，天兒屋根神，武甕槌命，経津主神
沿革：元龜年代（1570－72）白山社奉斎。明治四十五年（1912）同地区四坊春日社を合併，花園神社と改称。
- (59) 八幡（はちまん）神社（金沢市今町）
祭神：菅田別尊，氣長足姫尊，比咩大神
沿革：小浜神社摂末社を天正十五年（1587）移転造営
- (60) 菅原（すがわら）神社（金沢市梅田町辻の宮）
祭神：菅原道真
沿革：護国山波自加弥神社正八幡宮末社，天神社を分祀。
- (61) 川崎（かわさき）神社（金沢市北森本町）
祭神：天照大神
沿革：崇神天皇（第10代，年代不詳）の御代の創立と伝えられ神明宮或いは川向（かわさき）宮ともいう。
- (62) 住吉神社（金沢市南森本町）
祭神：菅原道真，表筒男神，中筒男神，底筒男神
沿革：元菅原社と称す。明治四十年（1907）村社住吉神社を合祀。現社名に。
- (63) 岩出（いわで）神社（金沢市岩出町安房山）
祭神：太玉命，建御名方命
沿革：兵火にあい創立不明。神作橋（今の岩根橋）の奥，岩出村諏訪山に岩出社あり。社殿の大破につき明治三十六年（1903）岩出神社に合併
- (64) 菅田別（ほんだわけ）神社（金沢市堅田町天神屋敷）
祭神：応神天皇，仲哀天皇，大山咋神，神功皇后
沿革：勧請年不明。木曾義仲時代創立の伝承あり。明治六年（1873）日吉社を合併。八幡社を菅田別神社と改称。
- (65) 軻遇突知（かぐつち）神社（金沢市不動寺町谷内宮）
祭神：火結神，素戔鳴神，日本武尊
沿革：火災により創立不祥。素戔鳴尊，日本武尊を相殿に奉斎。昔時不動尊も共にあったが七堂伽藍皆焼失し，不動寺の名のみ残る。鎮火産土神。
- (66) 住吉神社（金沢市河原市町）
祭神：表筒男神，仲筒男神，底筒男神
沿革：寛永年中（1624－43）小刀細工の名工三代長次郎という者が河原市用水（註10）が開通した時，住吉大明神を奉斎創建。
- (67) 八幡神社（金沢市月浦町）
祭神：応神天皇
沿革：創祀不明。豪族奥野五兵衛が月浦館を築造中創祀といわれ古来より武神として崇敬される。
- (68) 藤原八幡神社（金沢市月浦町高雄）
祭神：応神天皇
沿革：創祀不明。藤原氏がこれを信奉し，御詫八幡を創祀創祀。
- (69) 八幡神社（金沢市塚崎町）
祭神：神功皇后，応神天皇，仲哀天皇
沿革：創祀不明。村名は当村と隣村

- 吉原村に七塚あり。塚之崎が塚崎に、神社地も塚の一つ。
- (70) 郡家（ぐんけの）神社（金沢市吉原町）
祭神：大己貴神，少名彦那神
沿革：式内社か。聖武天皇天平五年（733）創祀と伝えられる。少彦名神社と称したが明治四十年（1907）菅原神社を合祀，大正四年（1915）現社名に。
- (71) 住吉神社（金沢市弥勒町）
祭神：表筒男命，中筒男命，底筒男命
沿革：元慶八年（883）加賀定願寺たる弥勒寺の鎮守社で元和三年（1617）現在地に。
- (72) 春日（かすが）神社（金沢市才田町甲）
祭神：武甕槌神，経津主尊，天児屋根尊，比咩大神
沿革：小浜神社摂末社を元正十六年（1588）移転造営。
- (73) 八幡神社（金沢市才田町乙）
祭神：菅田別尊，氣長足姫尊，比咩大神
沿革：小浜神社摂末社を天正十五年（1587）移転造営。
- (74) 忠縄（ただなわ）神社（金沢市忠縄町）
祭神：応神天皇，神功皇后，伊弉諾尊，伊弉冊尊，菊理媛命
沿革：寿永時代（1182－84）源平北国合戦の時「源氏の大將本村に本陣を構え忠縄手と云々」その臣本保之次郎左衛門土着し仕り，大將の守護神を奉祀し鎮守となし忠縄八幡社と称す。明治四十年（1907）白山社と合併現社名に。
- (75) 須々幾（すずき）神社（金沢市八田町）
祭神：味耜高根彦根神，伊弉諾命，伊弉冊命，蛭子神
沿革：創建勸請年不明，小浜神社の祭神の大己貴神の子，味耜高根彦根神を開墾耕作の神として祀り，治田御子神社と称した。仁和二年（886）雷火により焼失した社殿を井上莊地頭鈴木三朗が再建。須々幾神社と称す。天正十五年（1587）小浜神社摂社多賀神社（註 11）を移転造営。明治元年（1868）相殿蛭児神を分祀。比留児神社創建。大正十四年（1925）多賀神社旧地に三社合併，須々幾神社と称す。
- (76) 佐那武（さなたけ）神社（金沢市大場町）
祭神：大山咋命，市杵島姫命，天照大神
沿革：神龜三年（726）猿田比古神を勸請し，佐那武神社と称するも年々荒廢社地のみとなる。永延元年（987）富樫忠頼，小浜神社摂末社松尾神社（註 12）を移転造営。明治二年（1869）相殿の天照大神を分祀。日靈神社と称す。大正十三年（1924）両社合併の上，現在地に移転現社名に。
- (77) 瓊々杵（ににぎ）神社（金沢市福久町）
祭神：天津彦彦火瓊々杵尊，武甕槌命，経津主命，天児屋根尊，比咩大神
沿革：小浜神社摂末社で天正十四年（1586）移転造営。大正五年（1916）加寿神社を合併し，五柱

- の祭神となる。
- (78) 八幡神社（金沢市荒屋町）
祭神：菅田別皇命，他三柱
沿革：慶長二年（1597）勸請
- (79) 諏訪神社（金沢市金市町）
祭神：建御名方命
沿革：勸請不明。天正八年（1580）
兵火により焼失。慶長五年（1600）
社殿再建。
- (80) 菅原（すがわら）神社（金沢市百坂町）
祭神：菅原大神
沿革：不祥
- (81) 熊野（くまの）神社（金沢市法光寺町）
祭神：伊邪奈美命，事解男命，速玉命
沿革：創立不明
- (82) 市杵嶋（いちきしま）神社（金沢市柳橋町）
祭神：市杵島姫命，句々迺知命（くぐぬちのみこと）金山彦命，岡象女命（みずはのめのみこと）
沿革：創立年代不明
- (83) 野蚊（のづち）神社（金沢市神谷内町）
祭神：高皇彦霊神（たかみむすびのかみ）猿田彦神，事代主命，野椎神（のづちのかみ）
沿革：延喜式内社，痘瘡の神，天正四年（1576）創立
- (84) 少名彦（すくなひこな）神社（金沢市・横枕町）
祭神：大己貴命，少名彦命
沿革：創立年代不明
- (85) 八幡神社（金沢市疋田町）
祭神：応神天皇，神功皇后，比咩大神，豊受皇大神，伊邪奈岐命
- 沿革：創立年代不明。延明七年（929）
大水害により社殿流失。同年再建。
明治四十一年（1908）疋田神明社を合併。
- (86) 日吉神社（金沢市三池町）
祭神：大山咋命，大己貴神
沿革：不詳。山王さんと呼ばれていた。
- (87) 野間（のま）神社（金沢市小坂町東）
祭神：草野比咩神，武甕槌命，経津主命，天津児屋根命，比咩大神
沿革：嵯峨天皇弘仁十四年（823）加賀の国をおくや勅使を遣して之を当社に奉告せしむとあるのでそれ以前より存在。小坂庄は大和国春日の神領。元金沢市中町より天正期現在地へ転座。
- (88) 八幡神社（金沢市高柳町）
祭神：菅田別皇命，他三柱
沿革：応永十年（1403）社殿勸請
- (89) 八幡神社（金沢市田中町）
祭神：菅田別皇命，気長足姫命，比咩大神
沿革：創建不明。天正八年（1580）
社殿廃絶，元和三年（1617）再建。
- (90) 日吉（ひえ）神社（金沢市宮保町）
祭神：大山咋命，大己貴命，市杵島姫命，大鷦鷯尊
沿革：勸請年不明。天正五年（1577）
再建。江戸時代当社の他に「市姫大明神・多田之社」の二社があり明治に一社に合祀。
- (91) 日吉（ひよし）神社（金沢市千木町）
祭神：大山咋命，猿田彦神
沿革：創立年不明。延長七年（929）
大水害により社殿流出。同年再建。
- (92) 八幡神社（金沢市木越町）
祭神：気長足姫尊，菅田別尊，大鷦

- 鵜尊, 武内宿禰
沿革: 小浜神社摂末社を天正十五年
(1587) 移転造営. 享保十一年
(1726) 社殿再建.
- (93) 豊栄 (とよさか) 神社 (金沢市大浦町)
祭神: 酒解神, 大若子神, 子若子神,
菅田別尊
沿革: 小浜神社摂末社を天正十五年
(1587) 移転造営. 梅宮と称す.
明治十一年 (1878) 現社名に.
- (94) 八坂 (やさか) 神社 (金沢市千田町)
祭神: 素戔鳴命, 少彦名命, 罔象女
命, 聖武天皇
沿革: 天平八年 (736) 神託により一
宇創建. 天正年間 (1573-91) 兵
火により, 社殿, 神宝, 記録を失
う. その後社殿を旧跡に再建, 現
在に至る.
- (95) 貴船 (きぶね) 神社 (金沢市千田町)
祭神: 罔象女神
沿革: 今昭町の産土神だが (94) 八
坂神社と同床, 相殿 (同じ社殿).
但し鳥居は別にある.
- (96) 須岐 (すき) 神社 (金沢市東蚊爪町)
祭神: 天児屋根命, 菅田別命, 気長
足姫命, 比咩大神
沿革: 延喜式内社の古社. 元正天皇
霊龜二年 (716) 創建. 赤浜八幡,
赤馬場惣社八幡と称した. 元禄
(1558-69) 赤馬場須岐神社. ス
キは鋤 (すき) に通ずるの説あり.
浅野川をはさんだ対岸は須崎町.
鋤は須崎のサの落ちたものか. 同
じく対岸の蚊爪町には金山彦神
社があり鋤に関して渡来神の金
属技術者との関係も考えられる
(「能登・加賀の渡来民」より).

- (97) 八幡神社 (金沢市北寺町)
祭神: 大鷦鷯皇命, 菅田別皇命, 他
二柱
沿革: 創立不明. 長享年間 (1487-
88) の一向一揆のために社殿が廃
絶. 天正十五年 (1587) 再建.
- (98) 木船 (きふね) 神社 (金沢市松寺町)
祭神: 罔象女神
沿革: 勧請不明. 元和三年 (1618)
社殿造替え. 江戸中期には当社の
他に白山権現・天満宮の二社があ
って幕末に合祀されたはずだが
現在両祭神とも欠落.
- (99) 八幡神社 (金沢市磯部町)
祭神: 菅田別命, 気長足姫命, 比咩
大神
沿革: 正中二年 (1325) 勧請.

以上は旧河北郡の神社であるが (内灘は
(108) より (113)) 浅野川対岸の湖岸の
神社も記してみる.

- (100) 三口八幡 (みつくちはちまん) 神社
(金沢市三口町)
祭神: 菅田別皇命, 気長足姫命, 比
咩大神
沿革: 慶長二年 (1597) 勧請.
- (101) 三屋八幡 (みつやはちまん) 神社 (金
沢市三屋町)
祭神: 菅田別皇命, 気長足姫命, 比
咩大神
沿革: 天正十四年 (1586) 勧請.
- (102) 大河端 (おこばた) 八幡神社 (金沢
市大河端町)
祭神: 菅田別皇命, 気長足姫命
沿革: 創立年代不明. 建武元年 (1334)
勧請と伝えられる.
- (103) 平野 (ひらの) 神社 (金沢市北間町)

祭神：日本武尊，応神天皇

沿革：小浜神社の摂末社を天正十五年（1587）移転造営。明治四十一年（1908）浅川村字炭釜の村社八幡神社を合併し，平野神社に。

(104) 稲荷（いなり）神社（金沢市須崎町）

祭神：宇気保神

沿革：小浜神社の摂末社を天正十五年（1587）移転造営。

(105) 金山彦（かなやまひこ）神社（金沢市蚊爪町）

祭神：金山彦命

沿革：当社は元東蚊爪の須岐神社の境内に在りしを，元和三年（1617）須岐神社が赤浜八幡社地内移転に伴い，当地に移転遷座。加賀爪社と称するを，明治二十九年（1896）現社名。昭和四十九年（1974）浅野川改修で社殿を東向きより西向きに改築。

以上（100）－（105）は旧石川郡の神社である。

(106) 五郎島八幡（ごろうじまはちまん）神社（金沢市栗崎町）

祭神：誉田別皇命，氣長足姫命，比咩大神

沿革：延宝八年（1680）戸水八幡社の分霊を勧請。昭和五十年（1975）金沢港拡張工事のため現在地に移転（五郎島は元石川郡）。

(107) 栗崎八幡（あさがさきはちまん）神社（金沢市栗崎町）

祭神：誉田別尊

沿革：小浜神社摂末社で明徳年中（1390－93）移転造営。境内末社真榊神社あり（祭神天照大御神寛

永十五年（1638）造営）。境内末社事比羅宮あり（祭神大国主神，事代主神。天明四年（1784）勧請境外摂末社を明治三十五年（1902）境内に移転造営）。

以下は現内灘町の神社である。

(108) 菅原（すがわら）神社（内灘町向栗ヶ崎）

祭神：菅原道真

沿革：小浜神社摂末社を天正十五年（1587）移転造営。明治九年（1876）本根布村が当村へ合併の際，本根布の産土神，神明宮（祭神天照大神）を当社境内に移転再営。

(109) 小浜（おばま）神社（内灘町大根布）

祭神：大己貴神，事代主神，少彦名神

沿革：延喜式内社，勧請年代不詳。養老二年（718）朝廷より小浜磯崎より三十町余南，小浜の松林中（現内灘町黒津船地内）に転遷。天保三年（1889）黒津船より石川郡五郎島村へ移転。明治二十二年（1889）現在地へ移転再建。この神社は河北潟沿岸三十三村の神社に属する地区を氏子として扱っている。境内も広く入り口には両部鳥居がある。境内神社には磯崎神社（祭神天照大神，豊受姫神）彦龍，姫龍の二社もある。

(110) 黒船（くろふね）神社（内灘町宮坂）

祭神：大己貴神（地元ではエビス様と呼ぶ）

沿革：天保三年（1832）小浜神社が五郎島へ移転するとき旧社地に

創立. 明治二十二年(1889)社地
社殿崩壊, 現在地に. 昭和五十三
(1978)年宮坂, 黒津船地内両区
は合併して宮坂となる.

(111) 蛭児(ひるこ)神社(内灘町西荒屋)

祭神: 蛭児神

沿革: 大清湖西宮大明神西宮, 荒屋
蛭児神社と呼ばれた. 嘉永四年
(1851)創立. 創立由緒は蛇が湖
より現れたり白鷹が捕獲された
等の伝説あり. 小浜神社境内より
蛭児神社を移転造営.

(112) 八幡神社(内灘町宮坂)

祭神: 菅田別皇命, 氣長足姫命, 比
咩大神

沿革: 小浜神社の摂末社を天正十五
年(1587)移転造営.

(113) 鶴ヶ丘神社(内灘町鶴ヶ丘)

祭神: 大巳貴神, 少彦明神, 事代主
神

沿革: 昭和五十五年(1980)新しい
団地の守護神として小浜神社よ
り分霊創立.

以上(108) - (113)が内灘町の神社であ
る.

河北潟周辺の神々の出自

河北潟周辺の神社の全祭神の読み方, 祭
られた神社, 性格を50音順に記したが不詳
のものもある. 神の名は字の普及していな
い時代につけられたものが多く, 表記がま
ちまちである. 又名の末尾についた尊(み
こと), 神(かみ)は尊称で殿・様のこと
である. 表記の別毎に神社名を記した. 祭
神の読み方は, 「神道の本」「日本の神様
を知る事典」, 「石川県神社誌」に基づい

た.

(1) 味耜(耜)高根彦根神(あじすきた
かねひこねのかみ)

須々幾神社(金沢市八田)

出自: 一言主命(ひとことぬしのみ
こと)とも言われている. 父, 大国
主命(大巳貴命)母, 多紀理比売(た
ぎりひめ)命

本籍地: 出雲国

族: 地祇神(くにつかみ)族

その他: 一言主命は髭が長伸びる年頃
になっても, 昼夜分かたず泣きじゃ
くって満足に言葉が話せなかった.
大国主命は心配のあまり諸方を連れ
歩いたがそれでも泣きやまなかった.
夢占いで祈りようやく口がきけるよ
うになり御子はひの川の沿岸三津の
水でミノギを行う. アジは可美(う
まし)の意で美称. スキは, 鋤, 古
代のサヒ(刀)にあたる. つまり金
属神.

(2) 葦津姫命(あしづひめのみこと)

八幡神社(宇ノ気町多田)

吾田鹿葦津姫命(あたのかあしづひ
めのみこと)

清水八幡神社(津幡町清水)

大市比売神(おおいちひめのかみ)

上堂社(宇ノ気町笠島)

出自, 本籍地, 族: 不詳

その他: 市姫(交易をつかさどる女神)
と言われている.

(3) 天津彦彦火瓊々杵尊(あまつひこひ
こほのくにぎのみこと)

瓊々杵神社(金沢市福久)

天津彦瓊々杵尊

富士神社(津幡町領家)

出自: 天照大神の孫, 妻は大山津見

神（海の神）の娘，木花開耶媛命（このはなさくやひめ）この二人の子が海幸彦山幸彦，孫は神武天皇．

本籍地：高天原 族：天孫族

その他：大国主命より国譲りを受け出雲へ降下する時，猿田彦（天狗？）が先導．

（４）天星神（あまつほしのかみ）

七窪神社（宇ノ気町七窪）

不詳

（５）天照大神（あまてらすおおみかみ）

神明神社（七塚町木津），賀茂神社（宇ノ気町横山），亀田神社（同，谷），八幡神社（同，多田），闇地神社（同，鉢伏），賀茂神社（津幡町加茂），川崎神社（金沢市北森本町），佐那武神社（同，大場町）

天照大御神（あまてらすおおみかみ）

榊原神社（宇ノ気町大崎）

天照皇大神（あまてらすすめおおみかみ）

波自加称神社（金沢市花園八幡町）

出 自：伊弉諾尊が黄泉（よみ）の国から逃げ帰りミソギをしたとき生まれた．左目から天照大神（高天原を支配）右の目から月読命（つきよみのみこと：月の世界を支配）鼻から素戔鳴尊（すさのおのみこと：海を支配）．

本籍地：高天原 族：天孫族

その他：素戔鳴尊の乱暴に天の岩戸へ隠れた．

（６）天児屋根命（あめのこやねのみこと）

三輪神社（津幡町北中条），須岐神社（金沢市東蚊爪），近岡神社（同，近岡町），野間神社（同，小坂町東）

天児屋根神

花園神社（金沢市月影町），波

自加称神社（同，花園八幡町）

天児屋根尊

八幡神社（津幡町舟橋），瓊々

杵神社（金沢市福久町）

天津児屋根尊

春日神社（金沢市才田町）

出 自：父興台産霊神（ことむすびのかみ）

本籍地：高天原 族：天孫族

その他：ニニギが出雲へ降下したときの従者．三種の神器も一緒に降りる．中臣（藤原）氏の氏神．天の岩戸の前で祝詞（のりと）を上げた神．祝詞（のりと）言霊（ことだま）を司る神．

（７）伊弉諾尊（いざなぎのみこと）

藤森神社（宇ノ気町上田名），

白山神社（同，気屋）八幡神社（金沢市岸川町），花園神社（同，月影町）

伊邪諾命

須々幾神社（金沢市八田町），

忠縄神社（同，忠縄町）

伊邪奈岐命

八幡神社（金沢市疋田町）

出 自：父，オモダル神．母，アカカシコネ神．妻，イザナミ．子，日本列島（大八島）その他多数の神．第１子は蛭子（ひるこ・えびす）神．イザナミが死亡後ミソギで生まれた最後の三つ子が天照大神，月読命，素戔鳴尊．

本籍地：高天原 族：天孫族

その他：神話の中で最初に夫婦神として登場する神．伊邪は誘（いざ）なうの意．諾（ぎ）は男の意．

(8) 伊弉冊尊 (いざなみのみこと)

八幡神社 (金沢市岸川町), 花園神社 (同, 月影町), 忠縄神社 (同, 忠縄町)

伊弉冊神

加茂神社 (津幡町加茂)

伊弉冉神

上堂社 (宇ノ気町笠島)

伊邪奈美命

熊野神社 (金沢市法光寺町)

伊弉冊命

須々幾神社 (金沢市八田町)

出自, 本籍地, 族: イザナギと同じ.

その他: 冉 (み) は女の意. 最後に火之迦具土神 (ほのかぐつちのかみ) という火の神を生み火傷がもとで亡くなり, 黄泉 (よみ) の国へ.

(9) 市杵島姫命 (いちきしまひめのみこと)

盛土神社 (高松町長柄町), 亀田神社 (宇ノ気町谷), 佐那武神社 (金沢市大場町), 市杵島神社 (同, 柳橋町), 日吉神社 (同, 宮保町)

出自: 父 スサノオ 母 櫛名田比売命 (くしなだひめのみこと)

本籍地: 高天原 族: 天孫族

その他: 福岡県の海洋豪族, 胸形 (むなかた) の君の氏神. 宗像三神と呼ばれるイチキシマヒメ, 奥津島比売命 (おきつしまひめのみこと), 多岐津比売命 (たぎつひめのみこと) の中で一番の美人神. 巖島神社はこの名を取ったもの. 朝鮮との交易の途中にあるのが宗像大社. 帰化人秦 (はた) 氏の氏神. 松尾大社の祭神は大山咋神 (おおやまぐいのかみ) とイチキシマヒメ.

(10) 宇迦之御魂神 (うかみたまのかみ)

稻荷神社 (金沢市観法寺町)

稻倉魂命 (うかのみたまのみこと)

三輪神社 (津幡町北中条)

倉稻魂神 (くらいねたまのみこと)

倉稻魂神社 (宇ノ気町狩鹿野)

宇気保神 (うけもちのかみ)

稲花神社 (金沢市須崎町)

保食神 (うけもちのかみ)

白山社 (宇ノ気町宇気)

出自: 父, スサノオ. 母, 神大市比

売命 (かみおおいちひめのみこと)

本籍地: 出雲国 族: 地祇族

その他: 宇気 (うけ) は食物を意味している. ウカノミタマ, 大宜都比売 (おおげつひめ) 保食神は同一神とも言われているが古事記では別個に独立した三神として記載 (ウケモチノカミは天照大神の食事をつかさどる神). 宇迦之御魂 (うかのみたま倉稻魂) 神は稻荷神. 農村の稻荷社の多くは田の中の叢林もしくは田を見下ろす丘陵の突端に造営されることが多い. これは, 田の神は春, 農耕の節山から田へ下って, 秋, 収穫の節をもって山に登って山の神となるという, 農民の持つ普遍的な信仰から導かれたものとみられる.

(11) 上津綿津見神 (うわつわたつみのかみ)

住吉神社 (七塚町外日角)

中津綿津見神 (なかつわたつみのかみ)

住吉神社 (七塚町遠塚)

底津綿津見神 (そこつわたつみのかみ)

住吉神社 (七塚町松浜)

綿津見神

住吉神社（津幡町庄）

表筒男之命（うわつつのおのみこと）

中筒男之命（なかつつつのおのみこと）

底筒男之命（そこつつのおのみこと）

以上3神が住吉三神

住吉神社（七塚町白尾），住吉

神社（津幡町川尻），住吉神社

（同，太田），住吉神社（金沢

市南森本町），住吉神社（同，

河原市町）住吉神社（同，弥勒

町）

出 自：父はイザナギ。

本籍地：高天原 族：天孫族

その他：どちらも海神。黄泉の国でか

わりはてたイザナミを見たイザナギ

は川でミソギをした。水底で洗い浄

めた時に底津綿津見，中層で中津綿

津見，水上で上津綿津見の綿津見三

神が生まれた。綿津見は海（わたつ

み）のこと。これと同時に水底・中

層・水上で浄めた時住吉（墨江すみ

のえ）三神が生まれた。七塚町では

綿津見三神が別々に祀られ，住吉三

神がそろって祀られている。どちら

も海洋民族安曇（あずみ）氏の祖神。

(12) 蛭子神（えびすかみ）

榊原神社（宇ノ気町大崎），須々

幾神社

蛭子神（ひるこがみ）

蛭子神社（内灘町西荒屋）

出 自：父 イザナギ 母 イザナミ

本籍地：高天原 族：天孫族

その他：両神の最初の子。骨の無い子

だったので葦の葉舟に入れて流して

しまった。その子は摂津国西宮に流

れ着く。釣竿を持ち大きな鯛を抱え

た恵比寿様に変身した。又，大国主

命の子 事代主命（ことしろぬしの

みこと）が釣り好きだったので恵比
寿としたり，地方によっては鯨をい
う。

(13) 応神天皇（おうじんてんのう）

八幡神社（高松町内高松）八幡

神社，（七塚町秋浜），加茂神

社（津幡町加茂），清水八幡神

社（同，清水），八幡神社（同，

津幡），三輪神社（同，北中条），

八幡社（金沢市岸川町），八幡

神社（同，塚崎町），藤原八幡

神社（同，月浦町），八幡神社

（同，月浦町），忠繩神社（同，

忠繩町），誉田別神社（同，堅

田町），平野神社（同，北間町），

八幡神社（同，正田町）

出 自：父，仲哀天皇（14代）。母，
神功皇后。

本籍地：大和国 族：天孫族

その他：子は大鷦鷯（おおさざぎ）尊

（仁徳天皇）他男子10名，女子15

名。百濟から王仁（わに）を招き新

しい文化産業を広めた。第15代天皇

となる。別名ほんだわけのみこと（誉

田別命，品陀和気命）。九州で生ま

れた。

(14) 大鷦鷯尊（おおさざぎのみこと）

野田八幡神社（津幡町横浜），

八幡神社（同，中橋），日吉神

社（金沢市宮保町）八幡神社（同，

木越町）

大鷦鷯主命（おおさざぎすめらみこ

と）

八幡神社（金沢市北寺町）

出 自：父，応神天皇（15代）。母，
不明。

本籍地：大和国 族：天孫族

その他：世界最大の陵墓で知られる16

代仁徳天皇。鵜鶺はかささぎとも読む。

(15) 大巳貴神（おおなむちのかみ）

醫師神社（津幡町川尻），郡家神社（金沢市吉原町），日吉神社（同，三池町），小浜神社（内灘町大根布），黒船神社（同，宮坂），鶴ヶ丘神社（同，鶴ヶ丘）

大物主命（おおものぬしのみこと）

井上三輪神社（津幡町浅田）

大物主神（おおものぬしのかみ）

大物主神社（宇ノ気町狩鹿野），三輪神社（津幡町北中条）

大巳貴命（おおなむちのみこと）

日吉神社（津幡町能瀬），清水八幡神社（同，清水），日吉神社（金沢市宮保町），少名彦神社（同，横枕町）

大巳貴尊（おおなむちのみこと）

日吉神社（金沢市利屋町）

出 自：父，天之冬衣神（あめのふゆきぬのかみ）。母，刺国若比売命（さしくにわかひめのみこと）。

本籍地：葦原中国 族：地祇族

その他：因幡（いなば）の白兔の伝説で知られる大国主命（おおくにぬしのみこと）のこと。大穴牟遲（おおなむち）大物主とも言われる。多くの妻と結ばれ越の国（今の新潟県）の沼河比売命（ぬかわ，ぬまかわ，ぬなかわひめ）との間に建御名方神が生まれた。少彦名命と日本の国づくりを行い後に天孫族に国譲りする。上記の沼河比売命のヌナカワは万葉集の歌に「沼名河の底なる玉…」と登場し，実際に新潟県西頸城郡姫川上流では翡翠の産地が発見された。

これは越の国と出雲の国の関係を表している。

(16) 大禍津日神（おおまがつひのかみ）

太白山神社（津幡町津幡）

不詳

(17) 大山咋命（おおやまくいのみこと）

日吉神社（津幡町能瀬），日吉神社（金沢市宮保町），佐那武神社（同，大場町），日吉神社（同，千木町），日吉神社（同，三池町）

大山咋尊

日吉神社（金沢市利屋町）

大山咋神

日吉神社（宇ノ気町上山田），加茂神社（津幡町加茂），誉田別神社（金沢市堅田町）

出 自：父，大年神。母，天知迦流美豆比売神（あめしるかるみずひめのかみ）。

本籍地：出雲国 族：地祇族

その他：別名を山末之大主神（やまのえのおおぬしのかみ）といい，山末は山裾（やますそ）を意味する。妻は建玉依比売命（たけたまよりひめのみこと）。京都賀茂御祖神社（下鴨神社）の祭神 賀茂建角身命（かもたけつねみのみこと）の娘。その子は賀茂別雷命（かもわけいかずちのみこと）で賀茂別雷神社（上賀茂神社）の祭神。古事記に「大山咋神は日枝山（ひえのやま）に座（いま）す」とあり日枝山は比叡山である。土木建築，酒造の神。

(18) 気長葦姫命（おきながたらしひめのみこと）

須岐神社（金沢市東蚊爪町），

八幡神社（同，才田町），八幡

神社（同，磯部町），八幡神社（同，田中町），五郎島八幡神社（同，五郎島町），大河端八幡神社（同，大河端），三屋八幡神社（同，三屋町），三口八幡神社（同，三口町）

氣長足姫尊（おきながたらしひめのみこと）

八幡神社（宇ノ気町指江），八幡神社（津幡町舟橋），八幡神社（同，中橋），八幡神社（同，中須加），八幡神社（同，五反田），八幡神社（同，南中条），八幡神社（同，太田），八幡神社（内灘町室）

出 自：父，息長宿称王（おきながのすくねのみこ）。母，葛城之高額比売（かつらぎのたかぬかひめ）。

本籍地：大和国 族：地祇族

その他：神功皇后のこと。仲哀天皇（14代）の妻 応神天皇（15代，誉田別尊）の母。息長氏：北近江の湖岸地帯坂田郡の豪族。息長：米原と醒ヶ井の中間で伊吹山が近い。内陸化した湖面を利用した海人族か？（谷川健一説・オキナガは金属集団）

(19) 軻遇突智命（かぐつちのみこと）

盛土神社（高松町長柄町）

出 自：父，イザナギ。母，イザナミ。

本籍地：高天原 族：天孫族

その他：イザナミが生んだ最後の神で火の神。ためにイザナミは火傷を負い亡くなる。カグは光り輝くの意味。イザナミが苦しみの内に吐いた「へど」から金山毘古神，金山毘売神など鉱業の神が生まれた。

(20) 金山彦命（かなやまひこのみこと）

市杵嶋神社（金沢市柳橋町），

金山彦神社（同，蚊爪町）

出 自：イザナミの嘔吐物から生まれた。

本籍地：高天原 族：天孫族

その他：（19）カグツチ参照。金山毘古神。「へど」が溶鉄の形に非常に似ているので鉄をつかさどる神。つまり鉱山，金物の神。

(21) 賀茂建角身命（かものたけつぬみのみこと）

關地神社（宇ノ気町鉢伏）

出 自：父母不詳

本籍地：日向国 族：地祇族

その他：大山咋命（（17）参照）の妻建玉依比売の父。神武天皇（第1代）の東征の際，大軍をひきいて参加した武勇の誉れ高い神。天照大神の命を受けて，八咫鳥（やたのからす）に化身して東征軍を先導。上賀茂神社の祭神。

(22) 賀茂別雷神（かもわけいかづちのかみ）

八幡社（宇ノ気町内日角），賀茂神社（同，横山），盛土神社（高松町長町）

出 自：父，大山咋命。母，建玉依比売。

本籍地：山城国 族：地祇族

その他：別命分土神（わけつちのかみ）古代の山城丹波地方を開拓。下鴨神社の祭神

(23) 加茂神（かものかみ）

加茂神社（津幡町加茂）

津幡町加茂は古代，賀茂神社の荘園であった。（21）（22）のことと思われる。

(24) 草野比咩神（かやのひめのかみ）

野間神社（金沢市小坂町東）

出 自：父，イザナギ．母，イザナミ．
本籍地：高天原 族：天孫族
その他：野の神．鹿屋根比売神とも書
く．夫は大山津見神．

(25) 貴布祢神（きぶねのかみ）

盛土神社（高松町長柄町），賀
茂神社（宇ノ気町横山）

出 自：イザナミの死後イザナミがホ
ノカグツチの首を剣で切った．その
剣を握った指の間からもれた血から
生まれた．

本籍地：高天原 族：天孫族
その他：貴船神社（京都）の祭神は高
麗神（たかおかみのかみ）．水の調
節を自在に操り豊草原の瑞穂の穀
物を豊かに実らせる神．長柄町は高
松フゴ沿いの町，近世フゴの水を抜
き田に変わった．

(26) 匂々迺知命（くぐのちのみこと）

市杵嶋神社（金沢市柳橋）

出 自：父，イザナギ．母，イザナミ．
本籍地：高天原 族：天孫族
その他：詳細不詳．久々能智神とも書
く．

(27) 菊理姫尊（くくりひめのみこと）

七窪神社（宇ノ気町七窪），花
園神社（金沢市月影町）

菊理媛神（くくりひめのかみ）

盛土神社（高松町長柄），白山
社（宇ノ気町宇気）宇野気神社
（同，宇野気），白山社（同，鉢伏），
三輪神社（同，北中条），白山
社（津幡町御門）

菊理媛命

忠繩神社（金沢市忠繩町）

出 自：不詳

本籍地：不詳 族：地祇神

その他：白山比咩神のこと．全国 3000
社を越える白山神社があるが「古事
記」に全く登場せず「日本書紀」に
1カ所しか登場しない．古代東北ア
ジアのシャーマンの系統の説が有力．
「くくる」は「水くくる」で水を浴
びる．つまり「禊（みそ）ぎ」「死
霊の託宣を語ったイタコの祖先のこ
とき神」古代アジアツングース系民
族の「白山郡」という支族の中で育
まれた「白頭山：太白山」信仰が日
本海を渡ったなどの説あり．

(28) 事代主神（ことしろぬしのかみ）

野蛟神社（金沢市神谷内町），
小浜神社（内灘町大根布），鶴
ヶ丘神社（内灘町鶴ヶ丘）

出 自：父，大国主命．母，神屋楯比
売命（かむやたてひめのみこと）．

本籍地：出雲国 族：地祇神

その他：事を知る神．正邪を判断する
能力に優れている神．大国主命が天
孫族に国譲りをする時，一緒に同意
した．釣り好きで恵比寿に擬せられ
る．父は大国に擬せられる．親子が
七福神のうちの二神．

(29) 事解男命（こととけのおのみこと）

熊野神社（金沢市法光寺）

不詳

(30) 木花開耶姫命（このはなさくやひめ
のみこと）

富士神社（津幡町領家）

出 自：父，大山津見神．母，不詳．

本籍地：高天原 族：天孫族

その他：木の花（桜）の栄える如く咲
き誇る様子からつけられた美女．夫
はニニギノミコト子は海幸彦，山幸
彦達．その美しい容姿は花なら桜．
山なら富士山にたとえられる．

(31) 酒解神（さかときがみ）

豊栄神社（金沢市大浦）

出 自：父，イザナギ．母，イザナミ．

本籍地：高天原 族：天孫族

その他：木花開耶姫命（酒解子神）の父，大山津見神のこと．大山津見は大山に住むの意．大山を管理する神．妹神鹿屋野比売神（草野比売命かやのみのみこと）と結婚．8人の山の神を作る．カヤノヒメは野椎（のづち）の神といい野の神．娘のコノハナカクヤヒメが子を産んだとき喜んで酒を造ったことから酒解神の別名がついた．

(32) 猿田彦命（さるたひこのみこと）

日吉神社（金沢市千木町）

猿田彦神（さるたひこのみこと）

野蚊神社（金沢市神谷内町）

出 自：両親，子，記録なし．

本籍地：伊勢国 族：地祇族

その他：身長高く，顔赤く，鼻高く，眼大きく，ほおづきの様に輝いた．天孫降臨の道案内をした神で，妻は天岩戸の前で踊ったアメノウズメ．祭礼の時，ミコシの先導をする赤ら顔の鼻高の猿面の神がサルタヒコ．

(13) - 2 正八幡神（しょうはちまんがみ）

波自加弥神社（金沢市花園八幡町）

(13) 応神天皇，(13) - 4 誉田別尊参照のこと．

(18) - 2 神功皇后（じんぐうこうごう）

八幡神社（宇ノ気町多田），忠縄神社（金沢市忠縄町），八幡神社（同，塚崎町），誉田別神社（同，堅田町）八幡神社（同，疋田町）

(18) 気長足姫命のこと

(33) 菅原道真（すがわらのみちざね）

菅原神社（内灘町向栗崎），菅原神社（金沢市梅田町），住吉神社（金沢市南森本町）

出 自：父 菅原是善の三男

その他：菅原氏は代々学者の家．遣唐使を廃止した人．藤原氏の謀略で太宰府に流され没した．その後朝廷に不幸が続く落雷や干ばつなどの災害が続いた．これは道真の怨霊が雷神になった為と考え天神の信仰が生まれた．学問の神様．また前田家は菅原家を祖先と称したので特に天満宮を大事にした．

(33) - 2 菅原大神（すがわらのおおかみ）

菅原神社（金沢市百坂町）

菅原道真のこと

(34) 少彦名命（すくなひこなのみこと）

八坂神社（金沢市千田町），醫師神社（津幡町川尻），富士神社（同，領家）

少彦名神

波自加称神社（金沢市花園八幡町），小浜神社（内灘町大根布），鶴ヶ丘神社（同，鶴ヶ丘）

少名彦那神

郡家神社（金沢市吉原町）

出 自：父，神産巢日神（かみむすびのかみ）．

本籍地：高天原 族：天孫族

その他：オオクニヌシと国造りに励んだ小さな神．二人で国土を海の向こうから「アメノカガミブネ」に乗って光り輝きながら現れた．カガは蛇．カガチは大蛇．

(35) 素戔鳴神（すさのおのかみ）

軻遇突知神社（金沢市不動寺町）

素戔鳴命

八坂神社（金沢市千田町）

出 自：イザナギがミソギをした時鼻から生まれた。

本籍地：高天原 族：地祇族

その他：八岐（やまた）の大蛇退治の英雄神。ウカノミタマの父。五代後の子孫がオオクニヌシ。乱暴がすぎたのでアマテラスが天の岩戸に隠れ、高天原から追放された荒ぶる神。出雲へ降臨（京都八坂神社の祭神）。

(36) 高皇産霊神（たかみむすびのかみ）

野蛟神社（金沢市神谷内町）

本籍地：高天原

族：別天神（ことあまつかみ）族

その他：日本神話の最初の神はアメノミナヌシ、次がタカミムスビ、その子の神産巢日（かみむすび）神の三神を造化三神と称している。カミムスビから八代目がイサナギ、イザナミである。産巢日（むすび）は天地の生成を意味する。

(37) 武内宿称（たけしうちのすくね）

八幡神社（金沢市木越）、波自

加弥神社（金沢市花園八幡町）

武内宿称命

野田八幡神社（津幡町横浜）

武内宿称神

八幡神社（津幡町中橋）

出 自：父、比古布都押之信命（ひこふつおしのまことのみこと）。母、山下影日売（やましたかげのひめ）。

本籍地：大和国 族：地祇神

その他：三百余歳もの長寿を保ったという伝説の人物。父は第八代孝元天皇の子。第13代成務天皇の時我が国初の大臣になった。第12代景行天皇から成務、仲哀、応神、仁徳天皇まで五代の天皇に仕えた。神功皇

后（仲哀の妻）と協力して活躍。

(38) 武甕槌神（たけみかづちのかみ）

三輪神社（津幡町北中条）、波

自加称神社（金沢市花園八幡町）、春日神社（同、才田町）

武甕槌命

瓊々杵神社（金沢市福久町）、

花園神社（同、月影町）、野間神社（同、小坂町東）

出 自：父であるイザナギがカグツチを斬ったとき剣の先についた血から生まれた。

本籍地：高天原 族：天孫族

その他：建御雷之男神と書く場合もある。建（たけ）は猛（たけ）だけしく勇ましいさまを表し雷は神鳴り。又の名を経津主神（ふつぬしのかみ）、建布都神（たけふつのかみ）、豊布都神（とよふつのかみ）。アマテラスの命令で大国主に出雲の国を天孫族に譲るよう交渉した神。（5）天児屋根命と一緒に中臣（藤原）氏の氏神。武甕槌神：地祇神で海神、塞神（さえのかみ・道路の神）。建御雷之男神：天神族で剣神・雷神。

(39) 建御名方命（たけみなかたのみこと）

八幡神社（宇ノ気町多田）、加

賀神社（津幡町潟端）、岩出神

社（金沢市岩出町）、諏訪神社

（同、金市町）

建御名方神

加茂神社（津幡町加茂）、清水

八幡神社（同、清水）、波自加

称神社（金沢市花園八幡町）

出 自：父、大国主命。母、沼河比売命。

本籍地：出雲国 族：地祇神

その他：高天原から来たタケミカヅチ

に国譲りを断り力較べに負け科野
(信濃)の洲羽(諏訪)まで追いつ
められた神。妻は八坂刀売命(やさ
かとめのみこと)。

- (40) 糺玉依姫命(ただすたまよりひめの
みこと)

糺之神社(宇ノ気町余地)

出 自:父,賀茂建角身命。母,伊賀
古夜比売(いがこやひめ)。

本籍地:山城国 族:地祇族

その他:夫,大山咋神との間に賀茂別
雷神(上賀茂神社の祭神)を生む。
父と玉依姫は下鴨神社の祭神。建玉
依比売命(たけたまよりひめのみこ
と)とも言う。

- (41) 仲哀天皇(ちゅうあいてんのう)

波自加称神社(金沢市花園八幡
町),八幡神社(同,塚崎町),
誉田別神社(同,堅田町)

出 自:父,日本武尊。妻,神功皇后。
子,応神天皇。

本籍地:大和国 族:天孫族

その他:第14代天皇。九州のクマソ征
伐に神功皇后と向かったが敵の矢を
受け死亡。越の国から白鳥(父,日
本武尊の生まれ変わり)を献上され
たことがある。

- (42) 豊宇気毘売神(とようけひめのかみ)

稻荷神社(七塚町浜北)

豊受皇大神(とようけすめおかみ)

八幡神社(金沢市正田)

出 自:父,和久産巢日神(わくむす
びのかみ)。

本籍地:高天原 族:天孫族

その他:宇気は食物を表し,天照大神
の食事をつかさどる。(10)ウカノ
ミマタと同神という説もある。

- (24) - 2 野椎神(のづちのかみ)

野蚊神社(金沢市神谷内)

出 自:父,イザナギ。母,イザナミ。

本籍地:高天原 族:天孫族

その他:野蚊は蛇の意味又は草姫(か
やのひめ)のこと。カヤは古代朝鮮
南部の「伽耶(かや)」か?近くで
は小坂町東の野間神社,富来町草江
の草江神社がカヤノヒメを祀る,野
の神。

- (43) 波自加弥神(はじかみのかみ)

波自加称神社(金沢市花園八幡
町)

出 自:不詳

本籍地:加賀国? 族:地祇神

その他:ローカルの神。前章の(57)
参照。

- (13) - 3 八幡神(はちまんのかみ)

八幡神社(津幡町谷内)

(13) 応神天皇,(13) - 4 誉田別尊
参照のこと。

- (44) 速玉命(はやたまのみこと)

熊野神社(金沢市法光寺)

出 自:定説無し,イザナギが熊野速
玉命説あり。

本籍地:紀伊国又は出雲より移住

族:地祇族

その他:熊野三社のうち新宮市にある
のが速玉大社。

- (45) 比咩大神(ひめのおおかみ)

八幡神社(宇ノ気町指江),比

咩神社(津幡町能瀬)八幡神社,

(同,舟橋),八幡神社(同,

中須加),八幡神社(同,五反

田),八幡神社(同,南中条),

八幡神社(同,太田),八幡神

社(金沢市岸川),八幡神社(同,

今町),八幡神社(同,才田町),

八幡神社(同,田中町),八幡

神社（同，福久），八幡神社（同，
疋田町），八幡神社（同，磯部
町），須岐神社（同，東蚊爪町），
五郎島八幡神社（同，五郎島町），
大河端八幡神社（同，大河端），
三口八幡神社（同，三口町），
三屋八幡神社（同，三屋町），
野間神社（同，小坂町東），八
幡神社（内灘町室）

比売神（ひめのかみ）

三輪神社（津幡町北中条）

比咩，比売は女神の意味で特定の神の
名ではない。八幡神社系のヒメはタ
ギリ，イチキシマ，タキツの宗像三
神を意味する。春日神社系のヒメは
天美津玉照比売命（あなみつたまて
るひめのみこと）のこと。

(46) 経津主命（ふつぬしのみこと）

三輪神社（津幡町北中条），波
自加称神社（金沢市花園八幡
町），瓊々杵神社（同，福久町），
野間神社（同，小坂町東）

経津主尊（ふつぬしのみこと）

春日神社（金沢市才田町）

経津主神（ふつつぬしのかみ）

花園神社（金沢市月影町）

出 自：父，イザナギがカグツチを切
った時剣の先についた血から生まれ
た（タケミカヅチの又の名とも言う）。

本籍地：高天原 族：天孫族

その他：経津（ふつ）は剣の切る勢い
を表した言葉。タケミカヅチとペア
で祀られることが多い。

(47) 太玉命（ふとだまのみこと）（天布
刀玉命あめのふとだまのみこと）

岩出神社（金沢市岩出町）

出 自：父，高御産巢日神（たかみむ
すびのかみ）。

本籍地：高天原 族：天孫族

その他：造化の三神の子として高天原
に生まれ，天児屋根命（5）とともに
に祭祀のことをつかさどった神。太
玉串（ふとたまぐし）を捧げたこと
から名づけられた。子孫は朝廷の祭
祀を作り神事を奉仕してきた忌部
（いんべ）氏の祖先となった。一族
に玉作り（宝石の神）鍛冶の神（天
目一箇神あまのまひとつのかみ）が
いる。

(48) 火結神（読み不詳）

軻遇突知神社（金沢市不動寺
町）

祀ってある神社から考えれば（19）軻
遇突智命のことと思われる。金山毘
古命。金山毘売命も含まれるか？

(49) 火雷神（ほのいかづちのかみ）

藤原神社（宇ノ気町上田名）

出自，本籍地，族：不詳

その他：藤森神社が横山賀茂神社の末
社なので（22）賀茂別雷命のことか
と思われる。

(13) - 4 誉田別尊（ほんだわけのみこと）

八幡神社（宇ノ気町指江），八
幡神社（津幡町舟橋），八幡神
社（同，中橋），八幡神社（同，
中須加），八幡神社（同，五反
田），野田八幡神社（同，横浜），
加賀神社（同，潟端），八幡神
社（同，太田），八幡神社（同，
南中条），八幡神社（金沢市今
町），八幡神社（同，才田町），
八幡神社（同，田中町），八幡
神社（同，木越町），八幡神社
（同，高柳町），八幡神社（同，
利屋町），五郎島八幡神社（同，
五郎島町），豊栄神社（同，大

浦町)，栗崎八幡神社（同，栗崎町），八幡神社（内灘町室）

菅田別命

須岐神社（金沢市東蚊爪町）

菅田別皇命（ほんだわけすめらみこと）

八幡神社（金沢市荒屋町），大河端八幡神社（同，大河端），磯部八幡神社（同，磯部町），八幡神社（同，北寺町），三口八幡神社（同，三口町），八幡神社（同，三屋町），五郎島八幡神社（同，五郎島町）

(13) 応神天皇のこと。

(50) 前田綱紀（まえだつなのり）

加賀神社（津幡町潟端），八幡神社（金沢市利屋町）

出自：父，4代藩主前田光高（みつたか）。

本籍地：加賀国

族：生祀（生きているうちに祀られた）

その他：加賀藩5代藩主。潟端新を開拓するにあたり現津幡の山間部や潟沿岸の村の二，三男を選び基幹部とした。村民は仁政に感謝して生前祀った。松雲公と呼ばれる。

(51) 岡象女神（みずはのめのみこと）

木船神社（金沢市松寺町），市杵嶋神社（同，柳橋町），貴船神社（同，干田町）

岡象女神命

八坂神社（金沢市干田）

出自：父，イザナギ。母，イザナギ。

本籍地：高天原 族：天孫族

その他：イザナミがカグツチを生み火傷で苦しんでいる時，尿から生まれた。一緒に生まれたのは和久産巢日

神（わくむすびのかみ）肥料として再生産に結びつく神。別に雨を左右する水の神として祀られてもいる。

(52) 御年神（みとしのかみ）

亀田神社（宇ノ気町谷）

出自，本籍地，族：不詳

その他：亀田神社はアマテラス，イテキシマヒメ，ミトシノカミを祀るが，御歳大神を祭神とする神社は岐阜県大野郡宮村の飛騨一宮水無し（みなし）神社。

(53) 八坂刀売命（やさかとめのみこと）

加賀神社（津幡町潟端）

八坂刀売神

波自加弥神社（金沢市花園八幡町）

出自：夫（41）タケミナカタ。

本籍地：出雲国 族：地祇族

その他：夫と共に諏訪神社の祭神。

(54) 日本武尊（やまとたけるのみこと）

白鳥神社（津幡町加賀爪），平野神社（金沢市北間町），軻遇突知神社（同不動寺町），平野神社（同北間町）

出自：父，第12代景行天皇。母，針間之伊那毘能大郎女（はりまのいなびのおおいちづめ）。

本籍地：大和国 族：地祇族

その他：記紀の中の悲劇の英雄。南に北に大和の敵を破る。双子の弟として生まれ名は小碓の命（幼名）。兄は大碓。三重で死亡後白鳥に化身して飛び去る。草を刈り焼畑をした農の神とも剣を象徴とした金属神ともいう。

(11) - 2 綿津見神（わだつみのかみ）

住吉神社（津幡町庄）

(11) 綿津見三神参照

- (55) 若子神（わかこかみ）大若子神・子
若子神

豊栄神社（金沢市大浦町）

出自，本籍地，族，その他：不詳

以上 55 柱の神々が祀られているが，非宗教
法人の祭神は含まれていない。

謝辞

石川県神社庁の皆様，清水八幡宮宮司加
藤治樹氏，須岐神社宮司本嶋千加良氏のご
協力に感謝いたします。

参考文献

- 石川県神社庁．石川県神社誌．
日置 謙．1921．河北郡誌．河北郡役所．
町史編集委員会．1982．内灘町史．内灘
町役場．
町史編集委員会．1974．津幡町史 津
幡町役場．
田中喜男．1971．加賀，能登史蹟の散歩．
北国出版社．
志賀 剛．1985．式内社の研究第 8 巻北
陸道．雄山閣出版．
能坂利雄．北陸古代王朝の謎．新人物往
来社．
浅井茂人．1986．能登・加賀の渡来民．北
国出版社．
学習研究社．1992．神道の本．
阿部正路．1995．日本の神様を知る事典．
日本文芸社．
角川書店．1983．日本史探訪 1 日本人の
原像．
樋口清之．1985．逆・日本史全 4 巻 詳
伝社．

朝日新聞社．1986．日本の歴史．

平凡社．世界大百科事典．

下出積与．1970．石川県の歴史．山川出
版社．

註

(註 1)

たとえば津幡町北中条三輪神社では石川
県神社誌には主祭神として，大物主神，菊
理媛神，経津主命，武甕槌神，天兒屋根命，
比売神，稻倉魂命があげられている．これ
らは全く別々の系統の神で，祭神と関係す
ると思われる本社は，

大物主神 … 大神（おおみわ）

菊理姫神 … 白山（しらやま）

経津主命，武甕槌神 … 鹿島，鹿島，春
日

天兒屋根命，比売神 … 春日

稻倉魂命 … 伏見稻荷

である．また由緒には「山王社，日吉社と
も称せられて来た．明治四十年同字鎮座野
間神社・春日神社・今倉社を合併」とある
が，山王（日吉）と呼ばれているので大己
貴神（大物主と同一）と大山咋神，野間神
社を合併しているので草野比姫（かやのひ
め）も祭神となるべきだが記載がない．

7 鳥居や社殿の形式は祭神によって異な
るのが普通であるが，最近では鳥居も社殿
も様式にのっとっていないものが建てられ
るようになった．三輪神社も例外でなく，
現状は以下のようになっている．

一の鳥居 … 木製 稻荷鳥居 台座あり
（車により昭和 40 年代に両部鳥居が壊され
再建）

二の鳥居 … 白ミカゲ製 台座あり（昭和
2 年建立）

拝殿 … 春日造り

神殿 … 大社造り，平入り

境内に五輪塔数基あり．越前石製の地藏堂
あり．

(註 2)

天目（神目）一箇神（あまのまひとつのかみ）片目魚の伝説のある土地は製鉄の遺跡と一致することが多い。石川県では横山賀茂神社御手洗池の魚鹿島町小田中親王塚の堀の魚（石動山中に製鉄遺跡）羽咋市滝谷の蛇池、等々。これは製鉄作業でタタラ（送風機）を踏む人々が祀るのが単眼神。片目の人をメッカチ、カンチ（差別用語かもしれませんがお許し願う）と呼ぶのは金打ち鍛冶がなまったもので片目をつぶって火色を見て送風を調整し、鉄を溶かす手法から単眼神を祀った。（「北陸古代王朝の謎」「能登・加賀の渡来民」より）

西洋ではコークスを鉄鉱石から鉄を作ったが古来日本では砂鉄と木炭を粘土で作った炉に入れタタラで風（酸素）を送り温度を上げ鋼を作った。鉄鋼は農具、武具、狩猟具を作った。その技術は渡来人が伝えた。賀茂神社近くの宇ノ気町工業団地が造成されたとき製鉄遺跡が発見された。金津の名はそれによるものなのか。

（註 3）

日本の神の中に星の神は無いというのが定説だがこの神社の天星神はどのような神であろうか。調査未済。海洋民族安曇（あづみ）族が祖神とする住吉三社（上箇之男・中箇の男・底箇の男命）は冬季東南方向に見えるオリオンの三ツ星とする説が有力である。天文航法（星を観測しながら航海する法）に用いた。箇（つつ）は古語で星を意味する。星を祭り神とする珍しい例

（註 4）

タオキホオイは讃岐忌部氏ヒコサシリは伊忌部氏の祖。天太玉命の子孫忌部（いんべ）氏は古代占術も司った。

（註 5）

大將軍（ダイジン）と呼ばれる地名は越前、若狭地方（ダイジョコ）にもあり近くでは津幡町津幡地内（野山団地入り口付近）にもダイジンの地名がある。南朝鮮の村々には古くから村の入り口の小さな森を聖地として、部落に向かって左側に「天下大將軍」右側に「地下女將軍」と記した、チャンスン（トーテム）を立てる風習があ

る。越前地方ではダイジョコの森と呼んで聖地としている。大將軍がダイジョコと訛ったものらしい。そこが村境（北陸古代王朝の謎」より）

（註 6）

古代アジア東北部にいたツングース系の民族「白山部」という支族があった。彼らの中に育った白頭山＝太白山信仰が日本に渡ったという。（「神道の本」より）

（註 7）

白鳥伝説 日本武尊が東征の折り当地の国人が尊の軍に馳せ加わって目的を達した。それを賀して（祝って）この地を加賀と称した。尊の死後神霊が白鳥となって飛び立ち、留まったところを御陵とした。尊の子十四代仲哀天皇が勅して白鳥を求められた時、越の国（当時この地方は越中国）より白鳥四羽が献ぜられた。それがこの地であるとの伝承だが確認は無い。英雄の霊魂が白鳥に化すのは古代の信仰で日本をはじめ世界にある。古代白鳥はその鳴き声から鵠（くぐい）古布（こう）古比（こひ）などと呼ばれた。又白鳥は必ずしもスワンを指すとは限らず、鶴や鷺も含めた。仲哀天皇は亡き父の白鳥陵の濠（ほり）に白鳥を放し飼いにしようとして白鳥の献上を諸国に命じた。越の国から献上されたのはその時である。加賀爪以外では富山県新湊市の放生津潟の南に久々江（くぐえ）とか久々湊（くぐえみなと）があり隣の大島町には鳥取という地名もある。白鳥で有名な新潟（越後）の瓢湖で獲られても不思議ではない。（「日本の歴史」より）

（註 8）

大神（おおみわ）神社（奈良県桜井市三輪）

祭神：大物主大神，大己貴神，少彦名神
沿革：夫孫降臨以前に神霊は鎮座。本殿が無く、三輪山のすべてが御神体。祭神の大物主大神，大己貴神は大国主命と同一神

（註 9）

はじかみ古語で山椒や生姜をいう。但馬国気多郡（兵庫県竹野町椒）にも檮椒（は

じかみ) 神社があり朝廷に毎年一斗の椒を献上していた。

(註 10)

河原市用水 河原市町の森本川から津幡町加賀爪の津幡側までの用水をいう。18世紀初期、中橋久左衛門が作った。

(註 11)

多賀大社 (滋賀県犬上郡多賀町)

祭神: 伊邪那岐命, 伊邪那美命, 延命長寿, 無病息災の神

(註 12)

松尾大社 (京都市西京区嵐山宮町) ①大山咋神, 市杵島姫命②大宝元年 (701) 社殿を造営。帰化人秦 (はた) 氏の氏神酒作り醸造の神, 開拓, 治水, 建築の神

付記

1年間河北潟地方の神社を調べてきて知った伝承, 民話は次年度のテーマですが, 「河北潟地方の神社考」を読まれた方々へのとおきのお話。

加賀の名の起源については (46) 白鳥神社の白鳥伝説に書きましたが, もう少し詳しく書くと

「第12代景行 (けいこう) 天皇の皇子日本武尊 (やまとたけるのみこと 倭建命) が東夷 (とうい 東の国の大和に従わない人々) (註) を征服したとき, 当地方の人々が軍勢に加わったため目的を達することができた。加わったことを賀した (祝った) ので加賀と呼ばれるようになった。三重県で没した日本武尊は白鳥に変身し飛び去った。津幡町加賀爪の村社は白鳥神社 (祭神日本武尊) で加賀爪地内に軍加町 (こんかまち) と呼ばれる地区があり, 第14代仲哀天皇 (ちゅうあいてんのう 日本武尊の子) の時代当地方より白鳥を獲らえ献上した記録がある」

これは伝承として千数百年続いています。日本武尊が実在したとしても当時漢字というものが使われていたかどうか疑問ですが, 伝承としては面白いと思います。光

仁14年 (823年) 加賀郡の南半分が石川郡, 江沼郡の北半分が能美郡に制定されました。加賀という名は本来, 河北地方のことを指すわけです。ちなみに河北の河は浅野川を指します。

加賀郡が室町時代になって河北郡と呼ばれるようになったのです。

ここで余談ですが, 記紀 (古事記・日本書紀) には八尋 (やひろ 両手を広げた長さが一尋) の白智鳥 (しろちどり) と書いてあります。八の数字は古来日本人が多いとか大きいとかの意味で使ったもので八百万 (やおよろず) の神・八百屋 (やおや), 大江戸八百八町, 大阪八百八橋というふうに使いました。白智鳥は白い鳥。つまり大きな白い鳥に変身して飛び去ったという意味です。

余談のついでに角川新版古語辞典で加賀のつく言葉を調べてみましょう。

加賀 ①旧国名②加賀絹の略

加賀笠 (加賀管笠) かが算の婦人用の菅 (すげ) 笠。これの市が立ったのが, 金沢駅前の安江八幡 (笠市八幡)

加賀絹 かがさんの絹布。羽二重にて染めて裏地に用いる

加賀節 ①室町時代の加賀の遊女が歌った民謡の曲節②③略

加賀米 加賀産の米。品質が劣るとされた。

加賀簀 加賀産の上質のミノ

加賀紋 加賀の人が多く用いたのでよばれた。家紋ではなく月花などを図案化して地絹に染めた。

この中では加賀米の意味がちょっとひっかかりますが, それ以外は概していい意味です。

なお「加我」と書かれた古書もありますが, 当時の音を漢字に当てた為, そのような表記になったものです。津幡の場合, 都幡, 津波田, 津旗, 津波多等に書かれています。

日本の地名に二字のものは和銅六年 (713年) 風土記撰進の詔が出た時, 郡や号の名に好名を著けることが決められ多少の例外を除いて二字の好字がつけられました。

六世紀ごろ大和政権は地方豪族を国造

(くにのみやつこ 地方長官)に任命し支配させました。加賀方面は手取川以南を江沼国造(江沼臣おみ)以北を加賀国造(道君みちのきみ)が支配していました。当時の越前の政庁(国衙こくが)は今の福井県武生市にあり、加賀の郡役所(郡家ぐうけ)は今の金沢市吉原町にあったらしいですが確証はありません。金沢市吉原町の神社は郡家神社(70)です。

この稿を書いているうち金沢で日本北限の銅鐸が金沢で発見されました。100年以上前内灘付近で銅鐸が発見され現在金沢市内の料亭にありますが発掘地ははっきりしないので学術書には北限とされていません。これで石川県が銅鐸文化の北限になりました。又、田鶴浜町でも巨木遺跡が発見されました。加賀能登には巨木遺跡がいくつか見られます。

その昔出雲の国を大和に譲るように大和族から迫られたとき、大国主命と息子の事代主命は承諾しましたが、もう一人の息子建御名方(たけみなかた)は承諾せず、戦ったが破れて信濃の諏訪に逃れました。この建御名方神と妃の八坂刀売神(やさかとめのかみ)を祀るのが諏訪神社です。出雲族は大きな建造物を作る一族で、出雲大社は古代は高さ32丈(約97m)で、平安時代でも16丈(約48m)、江戸時代では8丈(約24m)となり現在に至っています。諏訪神社は6年毎に上社(前宮、本宮)、下社(春宮、秋宮)の4社に各4本、計16本の巨木を立てる奇祭が行われることでも知られています。金沢市南新保町にチカモリ遺跡があります。ここには最大径8mの円形プランにそって十数本程の円柱が等間隔にサークル上に立てられていました。そんなサークルが数群あります。柱は栗材が使われ、断面はカマボコ状になるように加工され、柱穴は約2mにもなります。能登真脇遺跡にも巨木遺跡があります。これらと諏訪一族との関係を考えても面白いと思います。

さて、読まれた皆様地図で各神社の位置を確認されましたか。白山神社は白山の見える場所に多いし、火の神を祀る神社は山裾に多い。これは製鉄するのに大量の木炭と砂鉄が必要なのがその理由です。ちょっ

と異例なのは浅野川下流の蚊爪付近の須岐神社と対岸の金山彦神社ですが、農具の鋤(スキ)集落は須崎(スザキ)金山彦神社と三つの要素が揃っていますが、木炭を作る林が近くにありません。

タタラ製鉄(前述)をするときは砂鉄を含む山を崩し水を流して比重選鉱して重い鉄と軽い泥とを分別します。このため土砂が川へ流れ込み川が荒れました。又木炭を大量に消費するので山が荒れ、必然的に川が荒れました。製鉄業者と下流の農業者が対立することもあったでしょう。古語で蛇のことをミズチといい、水とつながります。川が蛇で古来タタラ製鉄の盛んであった出雲地方の川(蛇)が暴れ回る。八幡の大蛇の伝説はスサノオが治水工事をしたことを表しているというのが定説です。

またまた余談。宇ノ気町鉢伏。津幡町谷内。金沢市月影町に共通している伝承があります。「椀貸しの穴」村の人が吉事、仏事の際の膳や椀を前日にその穴の前で必要な客数を告げておくと、当日ちゃんと穴の前に揃っている。使った後は返すのですが、ある横着な人が1客分ぐらい返さなくても分かるまいと全部は返さなかったところ次から頼んでも出てこなくなったという椀貸し伝説。

これは全国に存在します。その伝説が伝わる場所は山岳部が平野に接するところが多いのです。我々里に定住する人々の他に昔山を移住して暮らす人々がいました。サンカとか木地師(きぢし)とか呼ばれていた人々です。彼らは箕(み)やホーキ・籠(かご)草履(ぞうり)などの竹細工、木工品を作り里の人々の食料と交換して生活していました。その交流の場所が山と里の接点でそこにある「ほら穴」でした。詳しくは百科事典参照

また石川県の能登には気多大社(祭神大国主命)があります。気多の神は富山県高岡市伏木に気多神社があり、新潟県上越市にも居多(こた)神社があります。西には兵庫県城崎郡日高町に気多神社。鳥取県にも気多郡(現在は気高郡)があり大国主命と因幡(いなば)の白兔の話が気多前(けたのさき)に残っている。出雲(島根県)因幡(鳥取)との古代の越の国の関係は神

話の中にもありその一つは国引き神話である。出雲の国が小さいので高志の都々（つつ）の三崎（みさき）を引っ張ってきて出来たのは三穂の崎（現在の美保関）だという話。そしてあの八岐（やまた）の大蛇も「高志の八俣の遠呂智」として越の国から出雲へやって来たと記されている。

輪島の海士町の人々も福岡県の鐘ヶ崎（かねがさき）から渡ってきた宗像系の人々だし、能登の高浜の人々も若狭の高浜から渡ってきた人々です。河北潟湖沼研究所通信第1巻第2号（1995.8.15）に書いた「大陸の交流」ですが、能登半島は日本海に突出した最大の半島で九州へ向かった大陸の船が誤って漂着する最後の場所でした。

大陸からの使者は交易のため何を持ってきたのでしょうか。推古天皇十一年（603年）第1回の「冠位十二階」が判定されました。

これは遣隋使が随の都で見た中国の役人

を誇示する色あざやかな装束を見て考えられたものらしいのです。この制度は長くは続かなかったのですが、その服装の一部にシンボルとして毛皮が使用されていました。聖武天皇神亀五年（728年）渤海（ぼっかい 中国東北部から朝鮮半島北部にかけて存在したツングース系民族の国家）の使者が能登国福浦（富来町福浦）に漂着。積み荷に今でも高価な黒テンの皮300枚、朝鮮人蔘、ハチミツ等があり、日本からは米等の食料や絹織物を輸出しました。神武天皇の妻、光明皇后の時代、一般に輸入毛皮が愛用されるようになり、それを着ることは特権階級を意味しました。（「逆・日本史」より）

上記のように当地方は古代日本海の海流の影響が大きく知れば知るほど面白い発見があります。

次年度の民話、伝承、地名の起源にご期待下さい。